

# 論文の書き方について

林 文夫 (GRIPS)

2018 年日本経済学会秋季大会 若手・女性研究者のための特別セッション

# 最低限の常識

- 例えば

- 玄田有史(2005)「投稿のすすめ－私的経験から」『日本労働研究雑誌』 No.544. 54-59.
- 小野浩(2014)「学術論文の『パッケージング』－投稿作法を考える」『日本労働研究雑誌』No.645, pp.58-63. 小野浩(2016)「投稿の掟」『日本労働研究雑誌』 No.668, pp.74-78.

- まとめると

- One paper, one idea. 内容を一言で言えるか。Mortensen.
- One paragraph, one message. “theme sentence”
- 体裁（section head のフォントの統一、誤字・脱字、typo がないこと。...）
- Lit survey では仁義をきる。Refになるかもしれない人の論文を引用文献に入れる。
- Ref になって欲しい人の論文も引用文献に入れる。
- 書いてすぐには投稿しない。数回セミナーをしてから。
- 一番大事なこと：イントロ命（この点は後述。）

この講師のおじさんは私たちに説教を垂れるほど書くのがうまいの？

- JPE (2008) Ref 1
- ある雑誌の Ref 1

# 大前提

- 最低限の常識（既述）
- 大学院 core courses で使われる教科書の内容は一通り理解していること。
  - 知っていなければ そもそも まともな学术论文は書けない。例。
  - Editor, Ref は あなたが知らないことはすぐわかる。シロウトは desk-reject される。

## どうして「イントロ命」なの？

- Refはあなたが優秀であることを知らない。
- Refはイントロは読む。イントロを一読して何を言っているかわからなければ、rejectする理由を探し始める。
- Refは、仮に本体（イントロ以外の節）を読んでも、必ず誤解すると想定したほうが良い。誤解を防ぐには、イントロで論文の内容を誤解のないように要約する。

# 林流イントロ術

本体（イントロ以外の部分）は ほぼ書き終えていることを想定。より詳しくは、ミニブログ「都心のノマド」参照）

1. 本体から キーワードを集める。
2. （ここが一番難しいところ）どのパラブラフにどのキーワードを配分するか決める。
  - A) One para, one message.
  - B) One idea, one paper. イントロ全体がストーリーになるように。
3. それぞれのパラグラフを書き始める。
  - A) theme sentence
  - B) 各パラグラフは長くなってもよい。推敲のときに1割か2割短くする。
4. あとは推敲。実例。少なくとも1週間かける。トイレ。風呂。スタバ。電車内。詩人。

# マーケティング：論文の内容と publish できるかとは別

- 本場（アメリカ）にいないと不利。
  - Refによる statistical discrimination.
  - Editor が お友達だと有利。もっといいのは二人でお互いの論文の Ref。Repeated game.
  - アメリカの assistant prof にとっては、top 5 pub は死活問題。テニユア。一本で数千万円の現在価値。Editor は、限られた journal pages をそういう人に与えたい。
  - 本場でプレゼンできるチャンスが少ない。
    - ◇ Refになる人は聴衆の中の可能性大。プレゼンを見たことがある論文は真面目に読む。
    - ◇ プレゼンすれば フィードバックが得られる。ダメ出ししてくれる。知らなかった関連文献がわかる。どのような誤解をされるのかわかる。
- では どうすればいいの？
  - いろいろなコネを作り、本場でプレゼンさせてもらう。AEA.
  - 日本人はプレゼンが極めて下手。プレゼン力の向上（ミニブログ「理想のプレゼン」参照）。
  - 本場でプレゼンできる人を営業担当 co-author にする。